

令和8年度 北九州・宗像圏域 流域治水協議会 議事概要

日時:令和8年5月18日(月)10:00~11:00

場所:福岡県八幡総合庁舎1階大会議室及びWeb会議(「Webex」利用)

議事次第

1. 開会
2. 流域治水について
3. 議事
 - (1)協議会規約の改定について
 - (2)流域治水プロジェクト更新案について
 - (3)今後のスケジュール(案)について
4. 関係機関からの情報提供
5. 意見交換
6. 閉会

議事概要

2. 流域治水について
「資料3」により、流域治水の概要、流域治水協議会、流域治水プロジェクトについて説明。
3. 議事
 - (1)協議会規約の改定について
「資料4」により、以下の内容を事務局より説明し、了承が得られた。
 - 流域治水協議会名簿を以下の通りに変更。
福岡県 総務部 防災危機管理局 消防防災指導課長 → 組織改編により削除
福岡県 建築都市部 下水道課長 → 福岡県 建築都市部 上下水道課長
 - 幹事会名簿を以下の通りに変更。
北九州市 都市戦略局 都市再生推進部 事業推進課長
→ 北九州市 都市戦略局 都市再生推進部 事業推進担当課長
北九州市 都市整備局 河川公園部 公園管理課長
→北九州市 都市整備局 河川公園部 公園計画課長
福岡県 総務部 防災危機管理局 消防防災指導課 課長補佐
→ 組織改編により削除
福岡県 建築都市部 下水道課 課長技術補佐
→ 建築都市部 上下水道課 課長技術補佐

(2)流域治水プロジェクト更新案について

「資料5」により、以下の内容について事務局より説明し、了承が得られた。

- 「資料5」は、昨年6月に公表した流域治水プロジェクトの更新版となり、幹事会において取り組みの実施状況の確認を行い、取りまとめたものとなっている。
- 位置図の更新点は、新たな取り組みを追加したこと、令和8年3月時点で完了すると取り組みが分かるように表現したことである。
- ロードマップの更新点は、新たな取り組みを追加したことが分かるように表現したことである。
- 取り組みの紹介の更新点は無く、本圏域においては42の紹介資料となる。

【意見】

(福岡県北九州県土整備事務所 中森所長)

- 位置図について、以下を修正願いたい。
「汐入川(汐入川水系)」より橋梁改築を削除。
「本木川(西郷川水系)」に堰改築を追加。

(事務局)

- 事務局にて確認後、修正を行う。

(3)今後のスケジュール(案)について

「資料6」により、以下の内容を事務局より説明し、了承が得られた。

- 4圏域全ての協議会が終了後、資料の最終調整を行い、6月下旬にプロジェクトの更新版を公表予定。
- 来年度も今年度と同様に、流域治水対策等における情報共有や、プロジェクトの更新を行っていく予定。

4. 関係機関からの情報提供

「資料7」の「取り組みの紹介」により、以下の内容について各機関より説明。

① 福岡県農林水産部農山漁村振興課、農村森林整備課

- 流域治水対策に係る主な支援事業(農業農村整備事業及び農業農村整備関連事業)について

② 福岡市道路下水道局計画部河川計画課(事務局代理説明)

- 民間事業者による雨水貯留浸透施設の設置に対する補助制度の創設
- 灌漑用途廃止後のため池を洪水調節池(治水池)へ転用

③ 気象庁福岡管区气象台

- 新たな防災気象情報について

④福岡県河川整備課

- 特定都市河川指定について
- 流域治水協働推進事業について

5.意見交換

(北九州市都市整備局河川公園部 平野部長)

- 北九州市では平成30年7月に2級河川を含む31河川で溢水被害が発生し、42箇所の護岸が崩壊した。また、昨年8月の豪雨では八幡観測所において最大24時間降雨量が観測史上最大を記録し、普通河川を中心に21河川で溢水が発生し、6箇所の護岸が崩壊した。そのため、流域治水の根幹となる河川改修については、引き続き着実かつ早期に進める必要がある。
- 金山川の上流域では、河川沿線の宅地化が著しく河道を広げる対応が困難であったため、調節池の整備を実施し、令和6年5月には3カ所目となる小嶺調節池が完成した。平成30年7月豪雨では金山川において氾濫危険水位を超過したが、同規模の雨量であった令和7年8月豪雨では、小嶺調節池の効果もあり、氾濫危険水位を超えることはなかった。
- ソフト対策としては、下水道部局では雨水タンクの助成を令和5年度から実施し、農林部局ではため池の低水管理を実施し、流域内での流出抑制に努めている。このように、個別河川における対策に加え、流域全体を見据えた包括的な視点は、気候変動による降水量の増加への対策のために重要であると考え。今年度もこれから雨が多い時期を迎えるため、流域全体が一体となった取り組みを進められるよう、有用な情報を提供いただくなど、引き続きご協力いただきたい。

(福岡県県土整備部河川整備課 伊藤企画主幹)

- 昨年8月の豪雨では記録的短時間大雨情報が6回発表され、宗像市、福岡市、北九州市及び行橋市で24時間降雨量や1時間降雨量が観測史上最大となり、特にこの圏域では非常に甚大な被害が発生した。
- 河川整備は流域治水の根幹となるものであるため、本県としても北九州市と同様、しっかり進めていきたいと考える。雨水タンクの助成や、ため池の低水管理、流域内のあらゆる関係者と共同して積極的に流出抑制に努めていただき感謝申し上げます。これらの取り組みは、流域内のあらゆる関係者が一体となって防災・減災に取り組む、まさに流域治水そのものであると考える。今後も対策を進めていく上で、課題や先行事例、国からの情報について引き続き協議会や幹事会で情報を共有し、本圏域の会員の皆様が流域治水を計画的に推進できるよう効果的な協議会の運営に努めていきたい。

協議会の様子(WEB会議)



協議会の様子(会場)



以上